



# スポーツボランティアに関する アンケート調査結果 (JSVN正会員団体・個人)

# 目次

---

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1. 調査概要         | P.3  |
| 2. 総括           | P.4  |
| 3. 調査結果(正会員 団体) | P.7  |
| 4. 調査結果(正会員 個人) | P.29 |

# 調査概要

---

- 目的:** スポーツボランティア活動の現状や課題、日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN)に対する要望を把握し、新たな活動施策に繋げる。
- ねらい:** 情報交換会等では把握できない個別の要望を課題解決策に転換し、これまでの活動成果を顕在化する。
- 内容:** ボランティアを必要とする理由、ボランティアに求めるもの、説明会の実施、募集時や活動時の課題、ボランティアの価値、正会員に提供するサービス等の重要度や効果、新たに提供してほしいサービスや情報、ボランティアを活用する具体的な施策等。
- 対象:** 正会員団体65、正会員個人19 計84
- 期間:** 2021年12月7日～2022年1月7日
- 方法:** インターネット調査
- 回収結果:** 正会員団体50(77%)、正会員個人15(79%) 計65(77%)

# 総括 ボランティア団体の現状と課題

---

- ボランティア団体の人材不足やボランティアリーダーの育成不足により、ボランティアのニーズを把握しきれていない。
- ボランティアの高齢化等に伴い、コミュニケーション等の運営効率が鈍化している。
- 大規模なスポーツイベントは、ボランティアが集まりやすいが、地域での活動は、事業の認知度や主催団体等の広報力などにより、募集人数に満たない場合が多い。
- 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、ボランティア活動上の制約や、感染症対策に苦戦している。

# 総括 ボランティアの価値

---

- ボランティアに関わる立場の違いにより、価値に対する視点が異なり、見解が大きく分かれた。概念的な価値を明確にすることよりも、ボランティアやボランティア団体の活動目的や経験などにより、様々な価値があることを浸透させ、更に新しい価値を発見、創造することが求められる。
- ボランティア団体が認識している価値観と、ボランティア個人の価値観に乖離があると、軋轢を生じる懸念がある。それぞれの価値観を尊重しながら、継続的に発展することを目指す必要がある。
- より大きな価値を生み出す為には、様々な価値観を持つ関係者が協働し、理解促進することが重要であると考えられる。

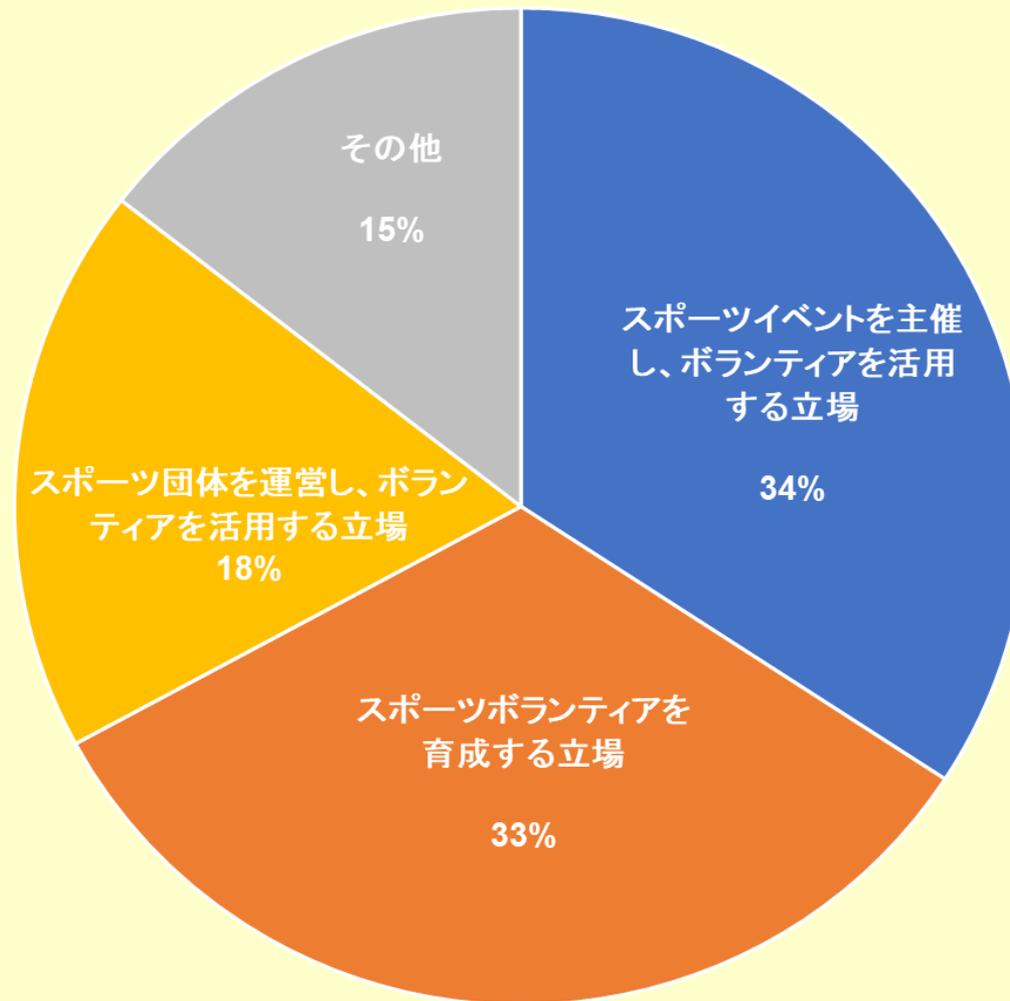
# 総括 JSVNの活動に対する評価・要望

---

- 現在、正会員に提供しているサービスや情報に関しては、概ね高い評価を得ており、特にボランティアの育成に関わる研修プログラムは、大きな効果を発揮している。また、会員団体との情報交換会やボランティア募集について一定の評価がある。
- 一部のサービスや情報に関しては、利用者が限定的であり、対象者を絞ることや一部休止など検討の余地がある。
- 正会員がボランティアのニーズを把握するために、ボランティアサミット以外にも両者の交流機会が求められている。また、成長機会を必要としていることから、ネットワークとして橋渡しだけでなく、ボランティア文化を方向づけ、発展させる活動が求められている。

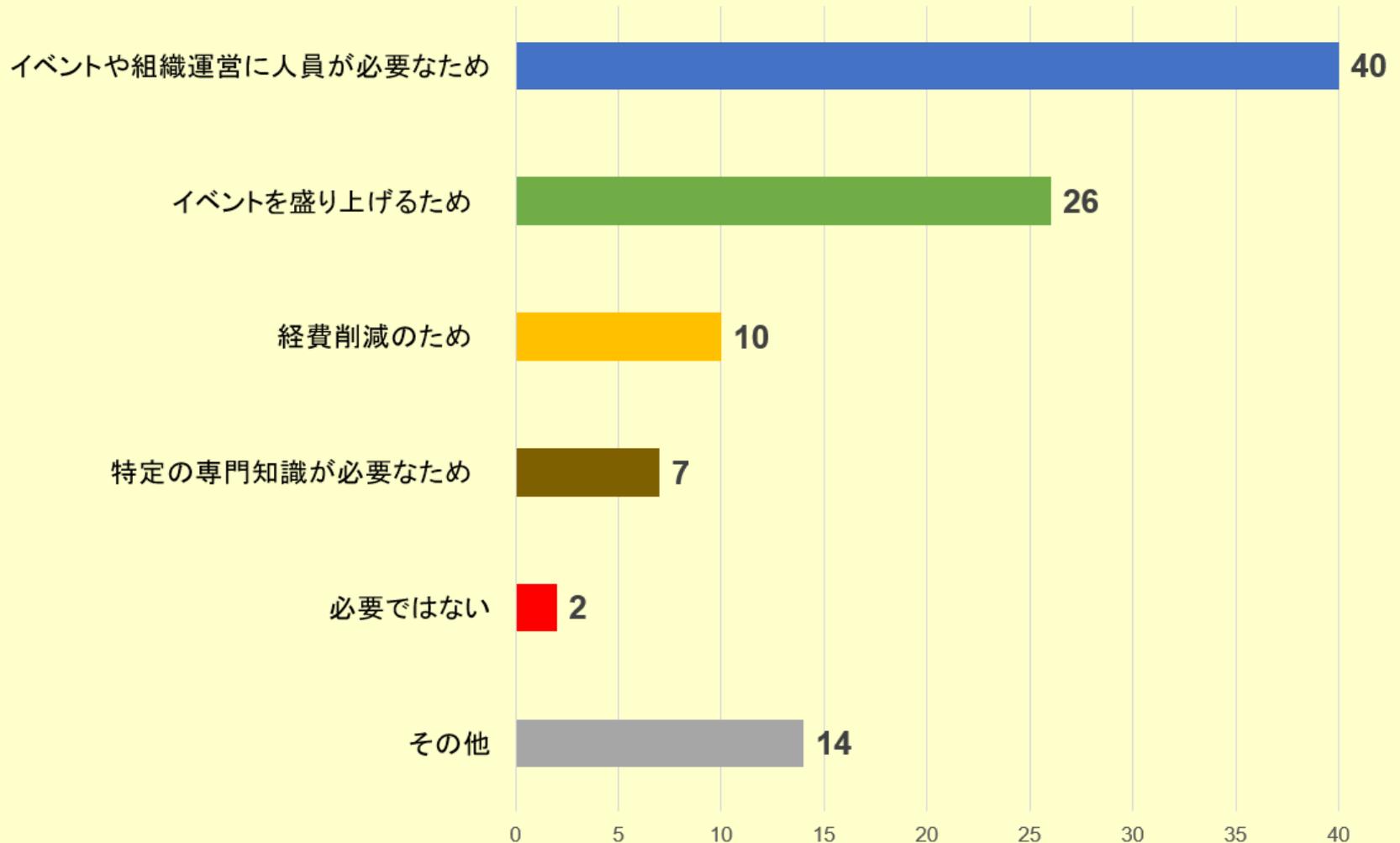
# アンケート結果詳細（団体）

## 3. スポーツボランティアに関して、どの立場で活動されていますか？



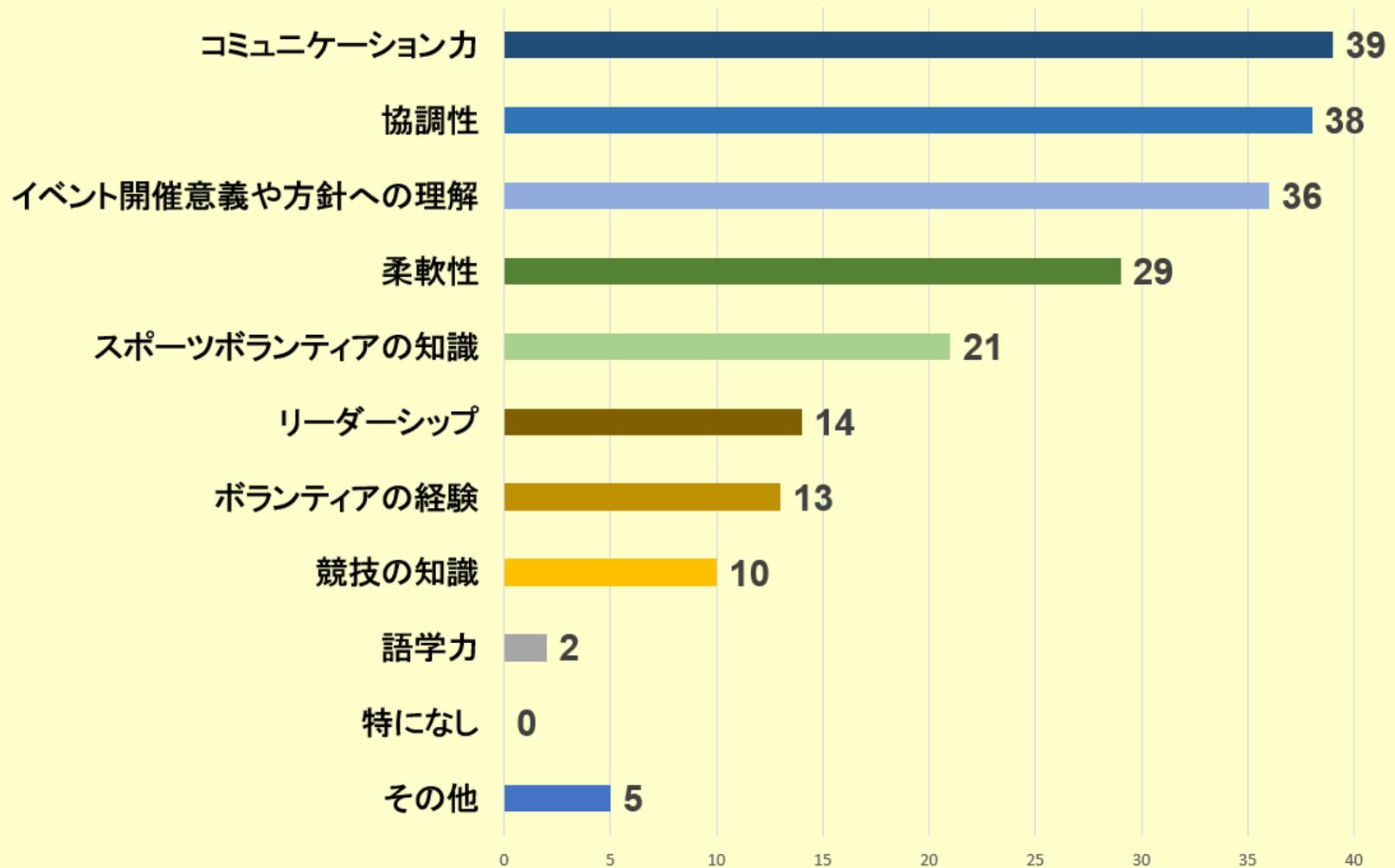
# アンケート結果詳細（団体）

## 4. 活動にボランティアを必要とする理由は何ですか？（複数回答可）



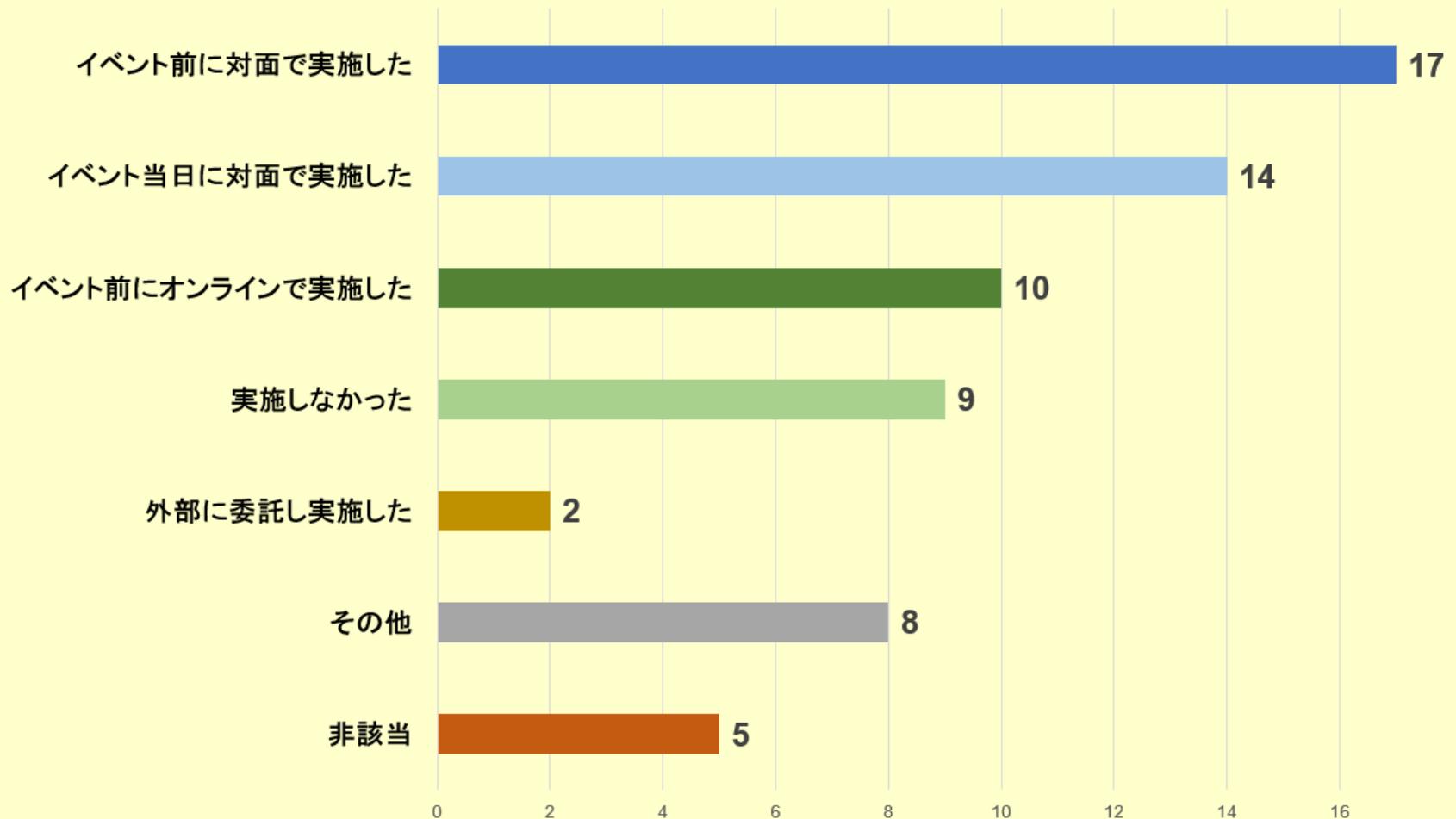
# アンケート結果詳細（団体）

## 5. スポーツボランティアに求めるものは何ですか？（複数回答可）



# アンケート結果詳細（団体）

## 6. ボランティア研修や説明会はどの様な方法で実施しましたか？ (2021年1月～12月)(複数回答可)



# アンケート結果詳細（団体）

## 7. ボランティアの募集人数に対する応募人数は？ （2021年1月～12月）

募集人数に対して、同数程度の応募があった

10

募集人員に満たない場合が多かった

7

募集人数は設定していない

5

募集人数を上回るが多かった

4

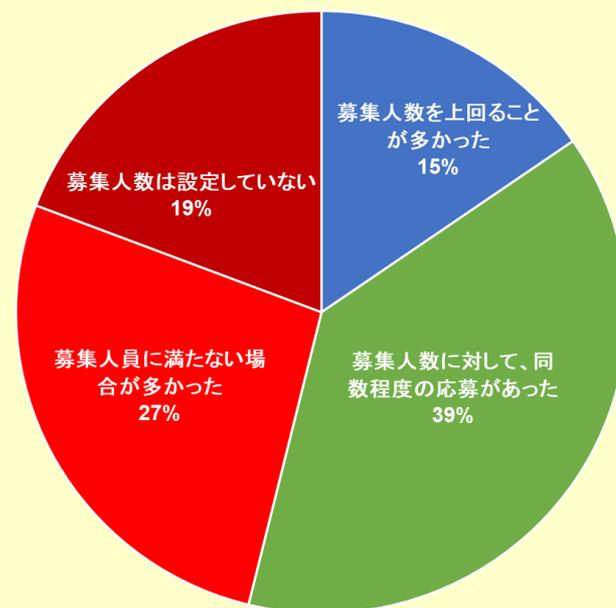
その他

4

非該当

20

ボランティア募集のみ抜粋



0 5 10 15 20

# アンケート結果詳細（団体）

## 8. ボランティア「募集時」の課題は何ですか（ボランティア活用団体・育成団体）

1	人数が集まるかどうかの見通し
2	小規模イベントには人が <b>集まりにくい</b>
3	イベントの <b>周知方法</b> ボランティア活動のイメージアップ(ただ働きできついなと思われぬように)
4	老若男女に平等な告知方法があるといい。ホームページに掲載しても <b>見れない人</b> がいる
5	メール連絡できない <b>高齢者</b> のボランティアが複数いること <b>裾野の拡大</b>
6	ボランティアに対する <b>感染症対策</b> について、どこまで記載し、どこまで講じればよいか
7	スポーツボランティア研修会やリーダー養成研修会に出席しなくても、ボランティアに参加できるため、学生たちからスポーツボランティア研修会との結びつきの理解が難しいように見えました

# アンケート結果詳細（団体）

## 8. ボランティア「募集時」の課題は何ですか（その他の団体）

1	オリンピック、全国大会、大規模マラソン大会などのイベントには多くのボランティアが集まっているようだが、地域レベルのスポーツイベントには、 <b>あまり集まらない</b> 印象 楽しみながらボランティアをしたいというボランティア側の気持ちも理解しているが、どのように楽しさを提供できるのか悩ましい
2	コロナ禍、イベントが少ない中で定員過多の際、 <b>救済措置</b> が整っていないこと
3	<b>需給バランス</b> 多くの登録・申込をいただいたが、ボランティア控室の問題もあり活動できない方が多くいらっしまった
4	<b>高齢化</b> 。支給品の経費削減(コロナ禍により感染対策費の比重が高くなり、従来の支給が難しい)
5	<b>新しい人材の開拓</b>
6	当団体の認知と活動への理解
7	初めて開催する場合はイベントや大会の意義や魅力を伝えること
8	通常プログラムの募集→必要人数の見込み、必要なスキルの要求について精査が必要 イベント→企業に対しては、イベント毎に振り分けてボランティアの依頼をして定着しているが、イベントによっては <b>必要人数に満たない</b> 場合がある。募集の方法見直しの検討が必要である
9	活動内容等が見通せないなかでの募集となり、枠組みを構築しつつも、走りながらの <b>軌道修正を前提</b> とした対応が課題でした
10	継続的な活動のため、 <b>慢性的なマンパワー不足</b> である
11	「楽しい」と感じられる環境作り

# アンケート結果詳細（団体）

## 9. ボランティア「活動時」の課題は何ですか（ボランティア活用団体・育成団体）

1	ボランティアを活用するマンパワー。運営側の知識不足
2	緊急時の体制と、関わる人の円滑なコミュニケーション
3	主催者との連携
4	様々な方々が活動される中、その方達を上手くコーディネートする人材の育成
5	要員の当日過不足対応
6	通常プログラムのボランティアの定着 イベントの場合、リーダーへの研修、個人参加への研修

# アンケート結果詳細（団体）

## 9. ボランティア「活動時」の課題は何ですか（その他の団体）

1	いかに気持ちよくイベントに協力していただけるか 無償の活動ではあるが、できるだけ質の高い活動をしてもらうにはどうしたらいいか
2	イベントの際は、自分も業務をしているので、 <b>ボランティア参加者の活動を確認することができない</b>
3	<b>ボランティアとアルバイトの扱いが同じ</b> 主催者がいる。主催者側の担当者が短期で交替し、引継ぎもなされていないことが多い
4	ボランティアのみなさんの期待する活動との乖離があり、落胆されることも少なくなかった。ボランティアの主旨をしっかりとご理解いただくことと、さまざまな制約の中でもどのようにしたら <b>有意義なボランティア活動になるか</b> 見出すことが課題でした
5	業務が多岐にわたるので、細やかな説明が必要なこと
6	知的障がい者が対象のため、臨機応変の対応が求められ、その支援が <b>リーダー</b> として求められる
7	拠点長からの指示系統を的確に理解して実行すること また、それを聞いてボランティアを取りまとめる <b>リーダー</b> が必要
8	<b>自主性の担保</b>
9	<b>感染症対策への温度感</b>
10	<b>高齢化</b>

# アンケート結果詳細（団体）

## 10. ボランティアからの主な要望は何ですか（ボランティア活用団体・育成団体）

1	活動現場での参加者（障がい者）との関りを多く持ちたい（スキルアップのため）
2	ボランティアとわかるようなマークやビブスの提供
3	活動時間の短縮

## 10. ボランティアからの主な要望は何ですか（その他の団体）

1	ボランティアの位置づけをはっきりとすること
2	イベントに関しては、それぞれの役割の明確化とメンバーとの交流
3	業務内容、役割責任、分担、権限範囲、指揮命令系統の事前での明確化
4	活動の機会
5	当クラブのイベント等にボランティアで参加頂く方々は、運営側の規模感をご理解いただいているのか、これといった要望は受けない ただ問題点は多くあると感じており、うまくそこをヒアリングできていないこちら側の問題もある
6	長時間の活動となる場合は、適度に休憩をとれるように配慮してほしい

# アンケート結果詳細（団体）

## 11. ボランティアの価値は何だとお考えですか？（ボランティア活用団体）

1	個人にとっては、生きがい・健康づくり・仲間づくり 社会にとっては、郷土愛、共助社会の推進の一助
2	スポーツと地域・人をつなぐ無限の可能性
3	協力者、支援者、理解者
4	様々な人々と関わり、一つの目標に向けて協力していくことの大切さを学べること スポーツイベントを支えることが出来ること
5	世の中を明るくすること その世の中に、必ずボランティア自らも含まれていることが大切
6	自分も楽しみ、役に立ったなと思えること。達成感
7	人と人とのつながり
8	就労とは別のコミュニティとして社会貢献ができること 自身が好きなスポーツ団体に関われること
9	個人の自発的な意思で自主的な活動 個人が自己実現、価値観の共有、自由で平等な関係の構築、社会的課題や地域課題の気づき等
10	人のために役に立つ、周りのためにできることを自分で探して、動いていく力が身に付くこと
11	人間的成長 人や地域との結びつき
12	自己有用感が醸成できること
13	「する」「みる」「支える」スポーツの実践およびボランティアのやりがいの創造

# アンケート結果詳細（団体）

## 11. ボランティアの価値は何だとお考えですか？（ボランティア育成団体）

1	知的障がい者への理解と共生を体験いただき障がいのある人が、市民として社会参加をする良き理解者となっていていただくこと
2	他人のために尽くすことにより自己の力量が測れるとともに、人間的成長が図れる場であると思います また、他者とのコミュニケーションによりそれぞれの価値観を身をもって経験し、自己形成の一助になると考えます
3	学校や職場、友人や趣味とは違った、ボランティア活動でつながる仲間との出会いや社会貢献を通じた貴重な経験を得られること
4	マインドの育成
5	大会らしさを演出すること

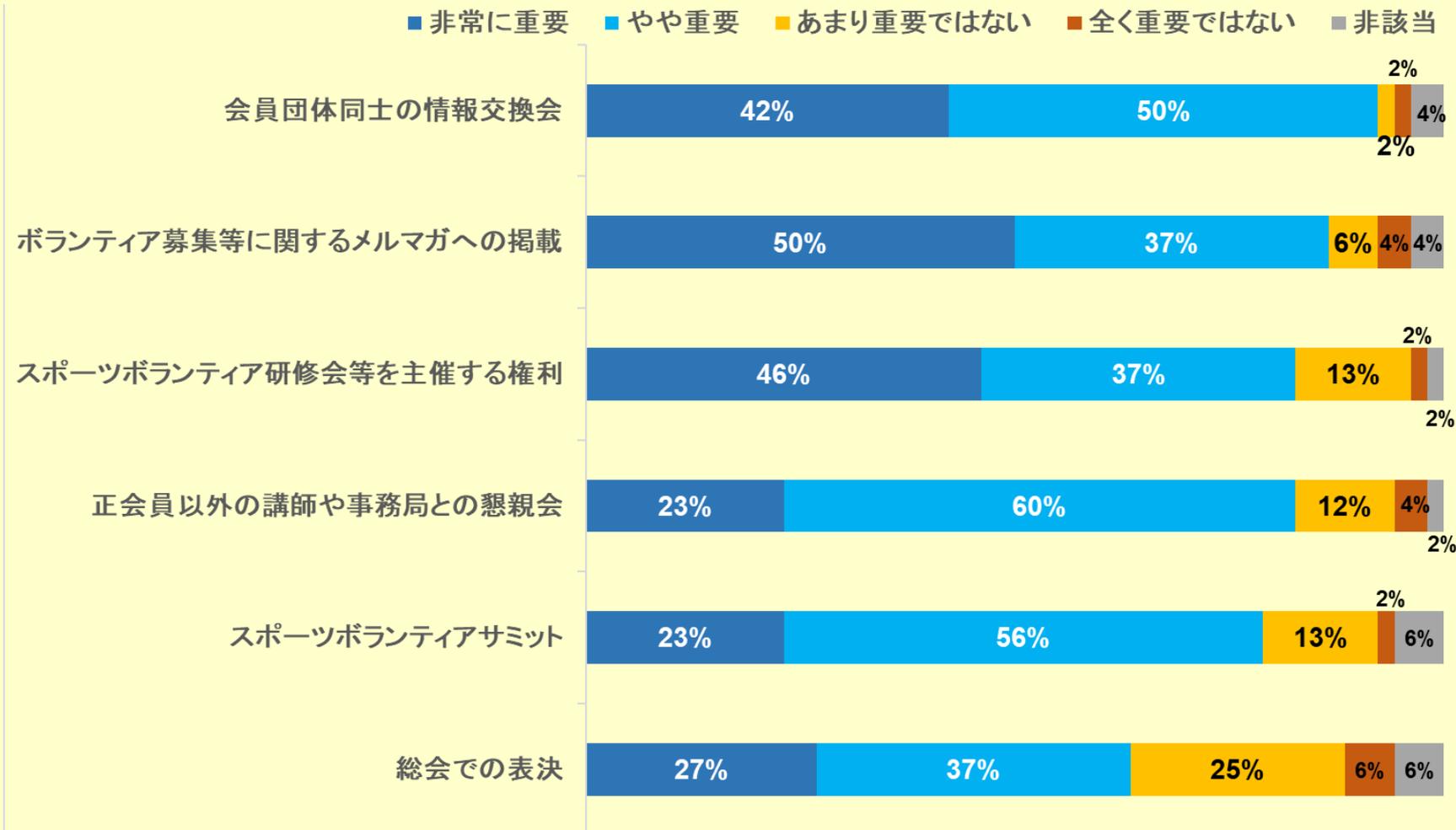
# アンケート結果詳細（団体）

## 11. ボランティアの価値は何だとお考えですか？（その他の団体）

1	金銭的な目的に縛られることなく、自身の世界を広げ、自身の可能性を高められることにある 多種多様な人材を巡りあい、自己成長を促すことができる
2	より良い社会創りにおいて欠くことのできない存在
3	社会貢献を通じた自己実現と成長 日常の活動では味わえない喜びと達成感、しあわせ感を得られる共に障がい者の成長を実できる
4	市民参加のまちづくりを体現する存在
5	非定型的な課題にチームで問題を解決する経験を得て、人間を成長させること
6	ボランティアの方自身が楽しみややりがい、目標などを持って参加しているので、結果としてイベント参加者の満足度が高まり、イベントの質も高まる。そこにボランティアの価値があると思います
7	無償な活動であるがゆえ、社会参加や自己実現などが叶うこと
8	ボランティアそのものももちろん大切だが、それ以上にボランティアをする事で人脈が増えたり、仕事の幅が広がったりすること
9	質問が重すぎます・・・(本音・・・)
10	「価値」という議論が不要になるくらい、ボランティアが特別なことではなく、もっと“日常”なことになること

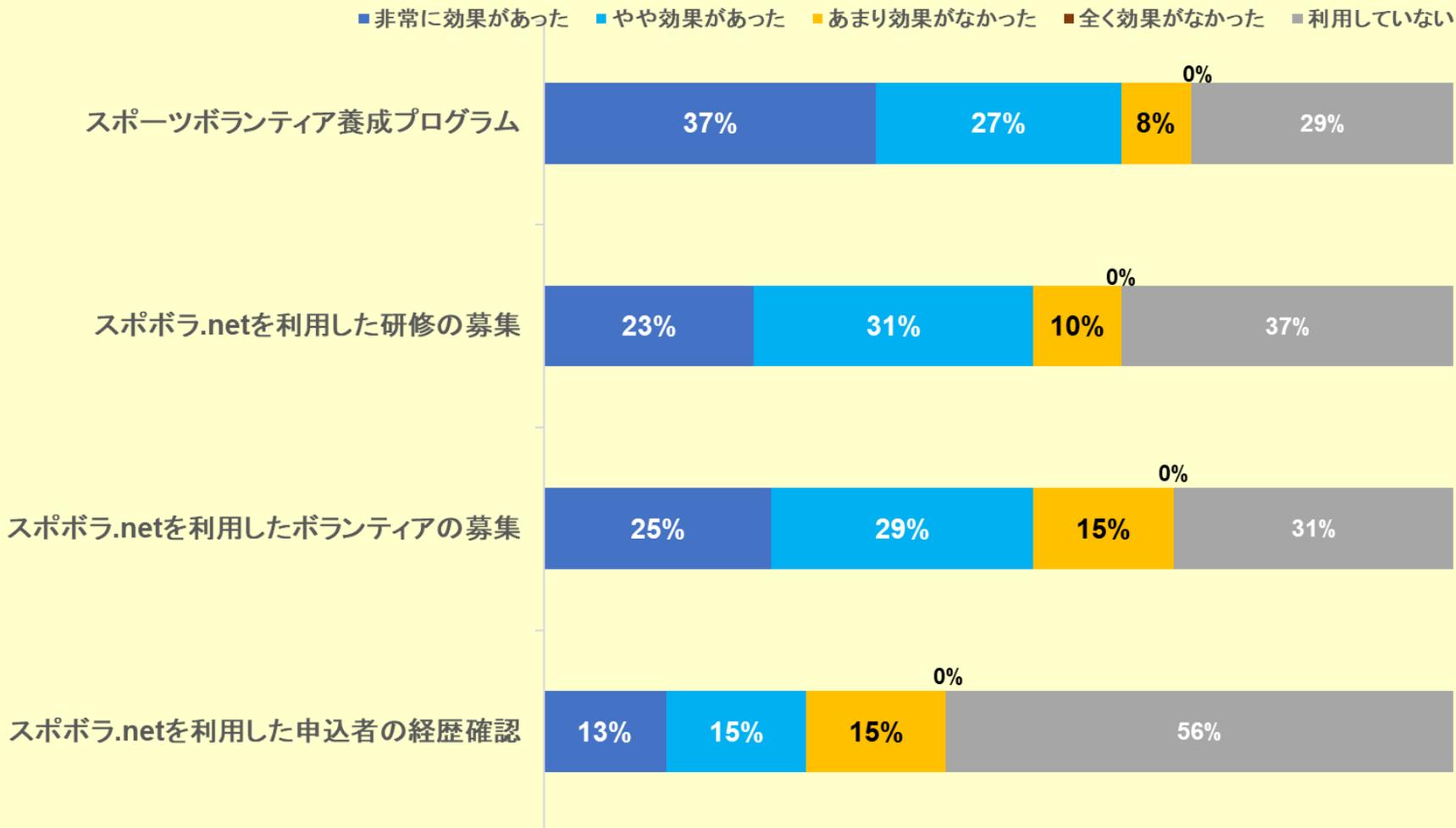
# アンケート結果詳細（団体）

## 12. 正会員へ提供している以下のサービスや機会に対する重要度は、どの様に感じますか？



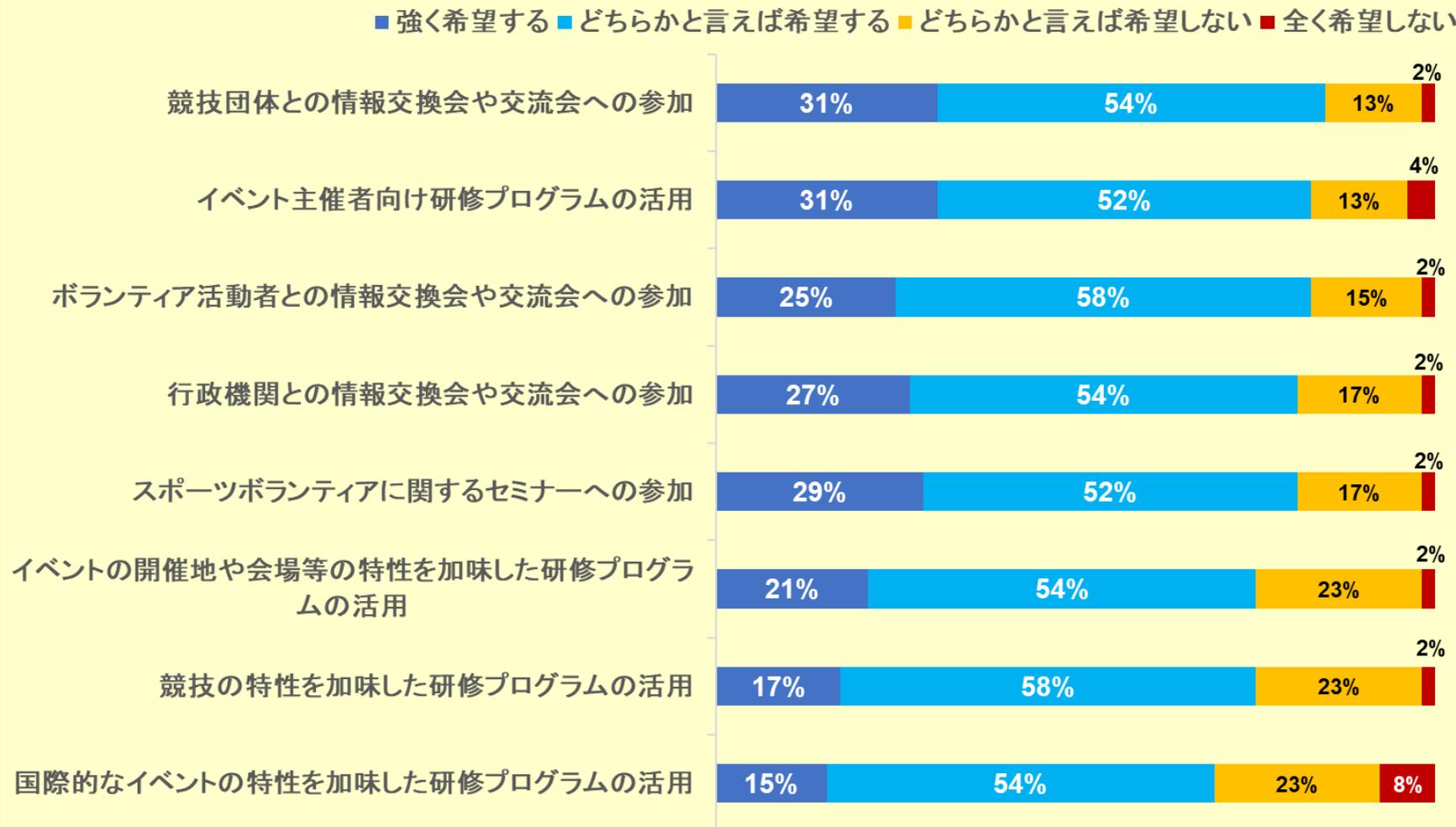
# アンケート結果詳細（団体）

## 13. 正会員へ提供している以下のサービスや機会に対する効果は、どの様に感じますか？



# アンケート結果詳細（団体）

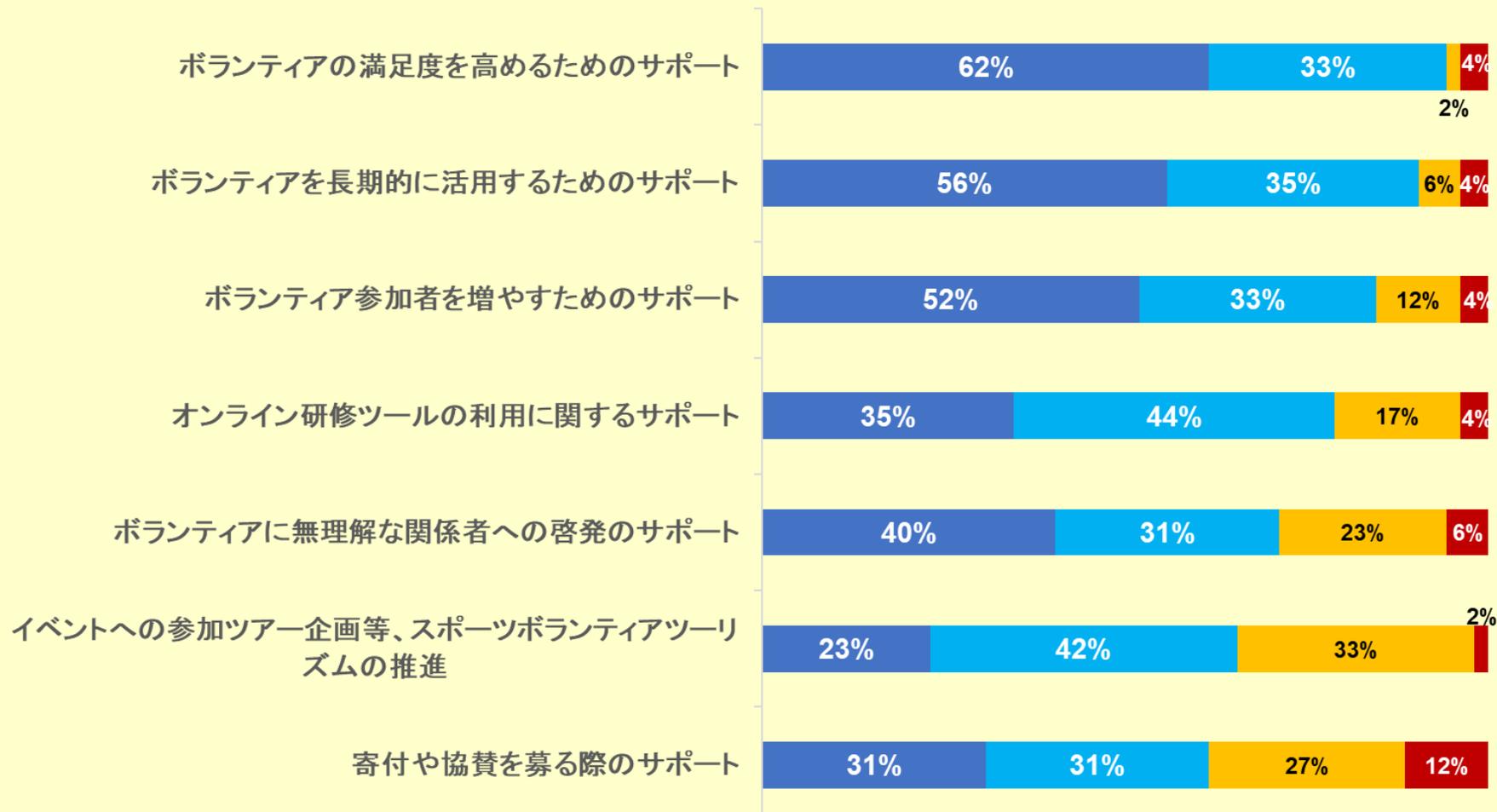
## 14. 今後、新たに提供してほしい機会は何ですか？



# アンケート結果詳細（団体）

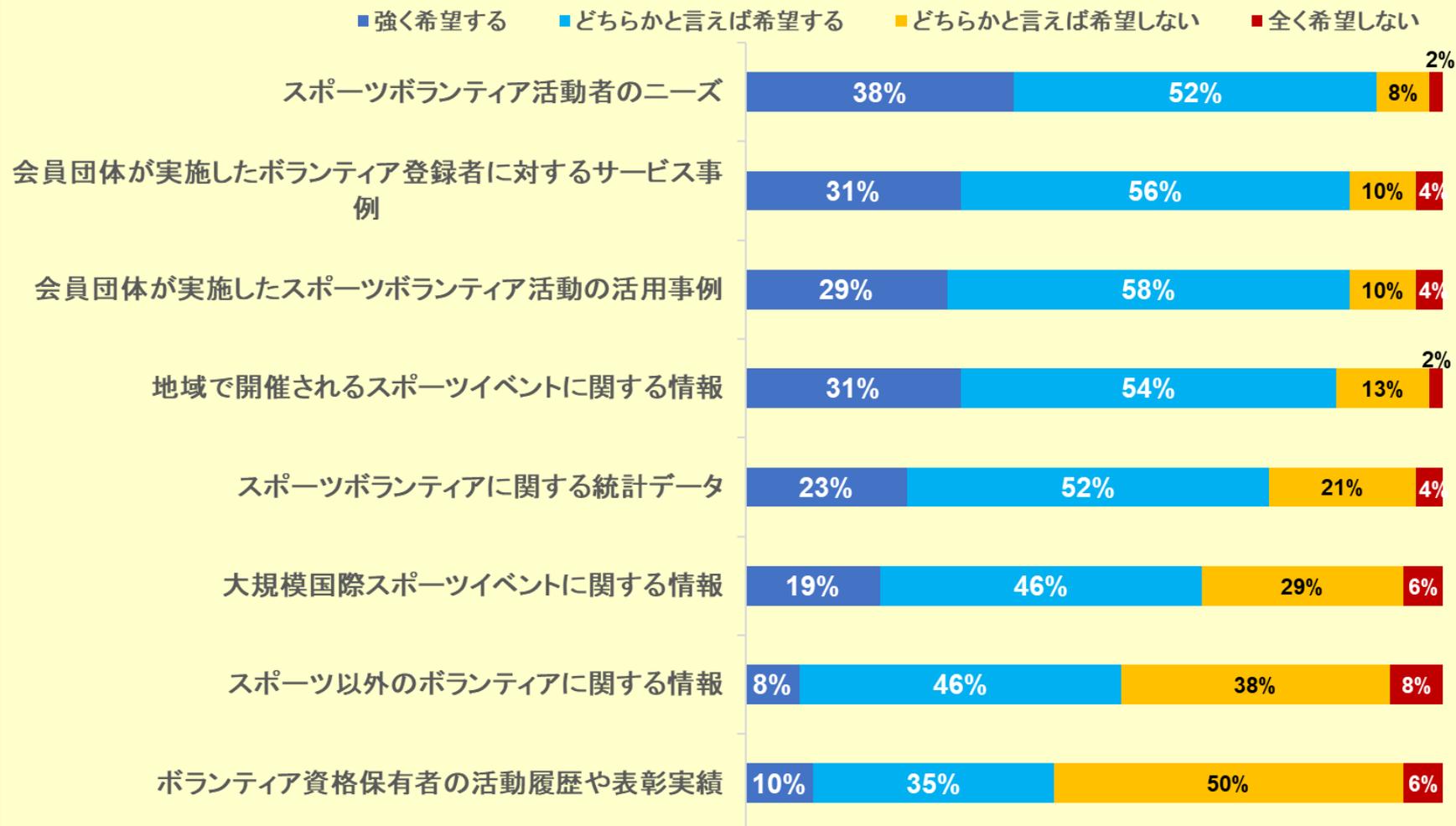
## 15. 今後、新たに提供してほしいサービスは何ですか？

■ 強く希望する ■ どちらかと言えば希望する ■ どちらかと言えば希望しない ■ 全く希望しない



# アンケート結果詳細（団体）

## 16. 今後、新たに提供してほしい情報は何か？



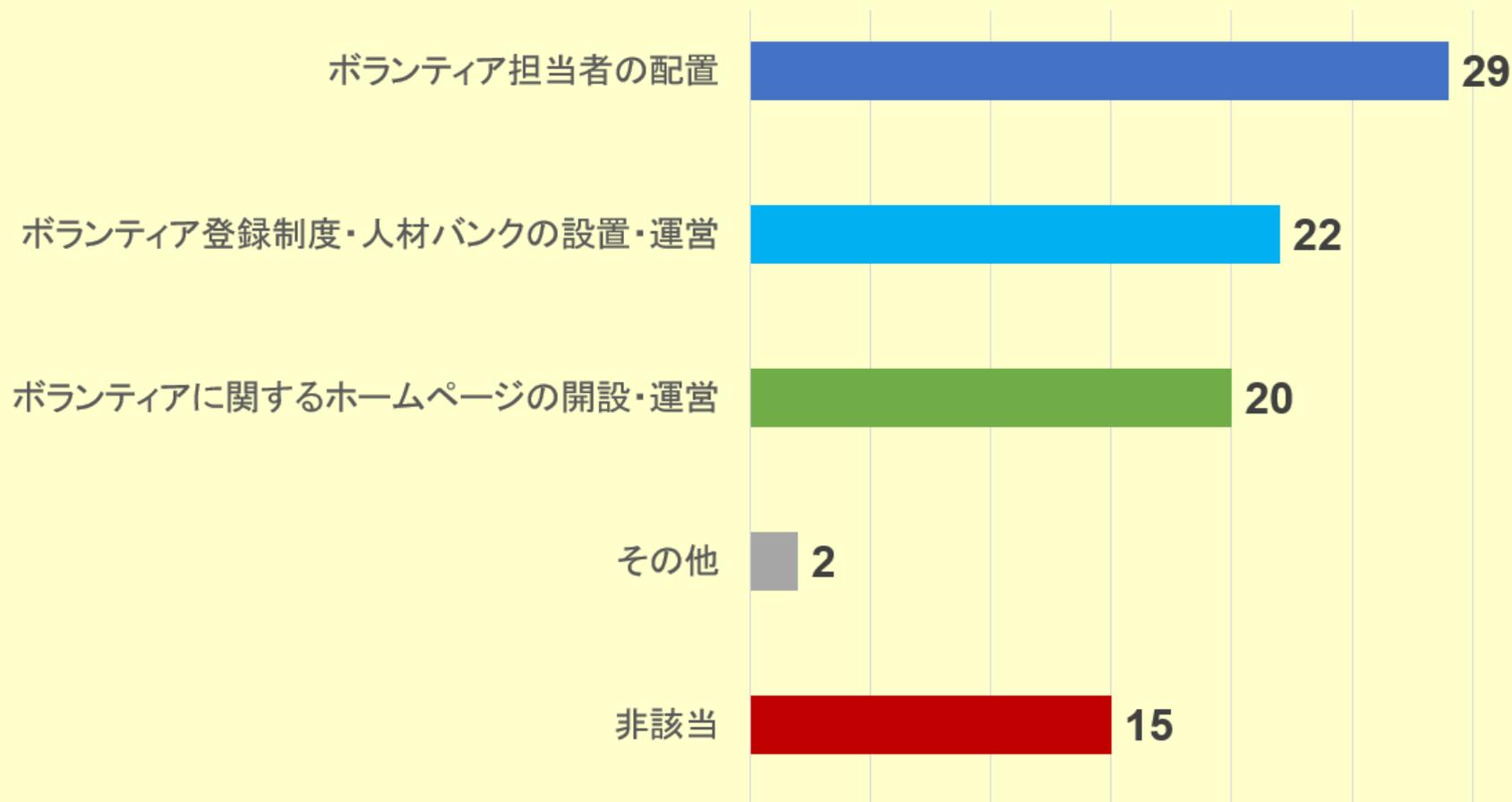
# アンケート結果詳細（団体）

## 17. 今後、新たに提供してほしい権利やサービス等に関して、ご意見があれば入力して下さい

1	スポーツボランティア研修会を継続して開催してほしい
2	大学生向けのプログラム
3	ボランティア組織の在り方(規模や情勢にあった運営体制について情報共有いただきたいです)
4	ボランティアを自分の意志でやろう、やってみようと思っている人への講習会やアナウンスは多いが、無理解の方の心を溶かすきっかけがあればと考える 実際のボランティア活動は、興味があるが、研修会や座談会などには興味が無いという方が多く、そこを引き付ける内容になるようにするには、どうしたらいいかと考えている
5	華々しい大規模イベントは、待っていてもボランティアが集まる環境になっていると思う ネクストステージは、地域のイベントとボランティアをマッチングするような地道な部分の仕掛けを期待している
6	少人数で構成されるボランティアグループの募集(イベントが月に2~4回開催される場合、一人が毎回参加では負担が大きい、グループで一人以上が毎回参加出来れば、継続的な参加が求めやすいため)
7	国際的なスポーツイベントに関われる機会が非常に貴重であることは重々承知していますが、そこにアクセスするための手段を持ち得ていないのが現状です。そのあたりを紹介などしていただくと助かります
8	ボランティア募集情報の多方面への発信、連携

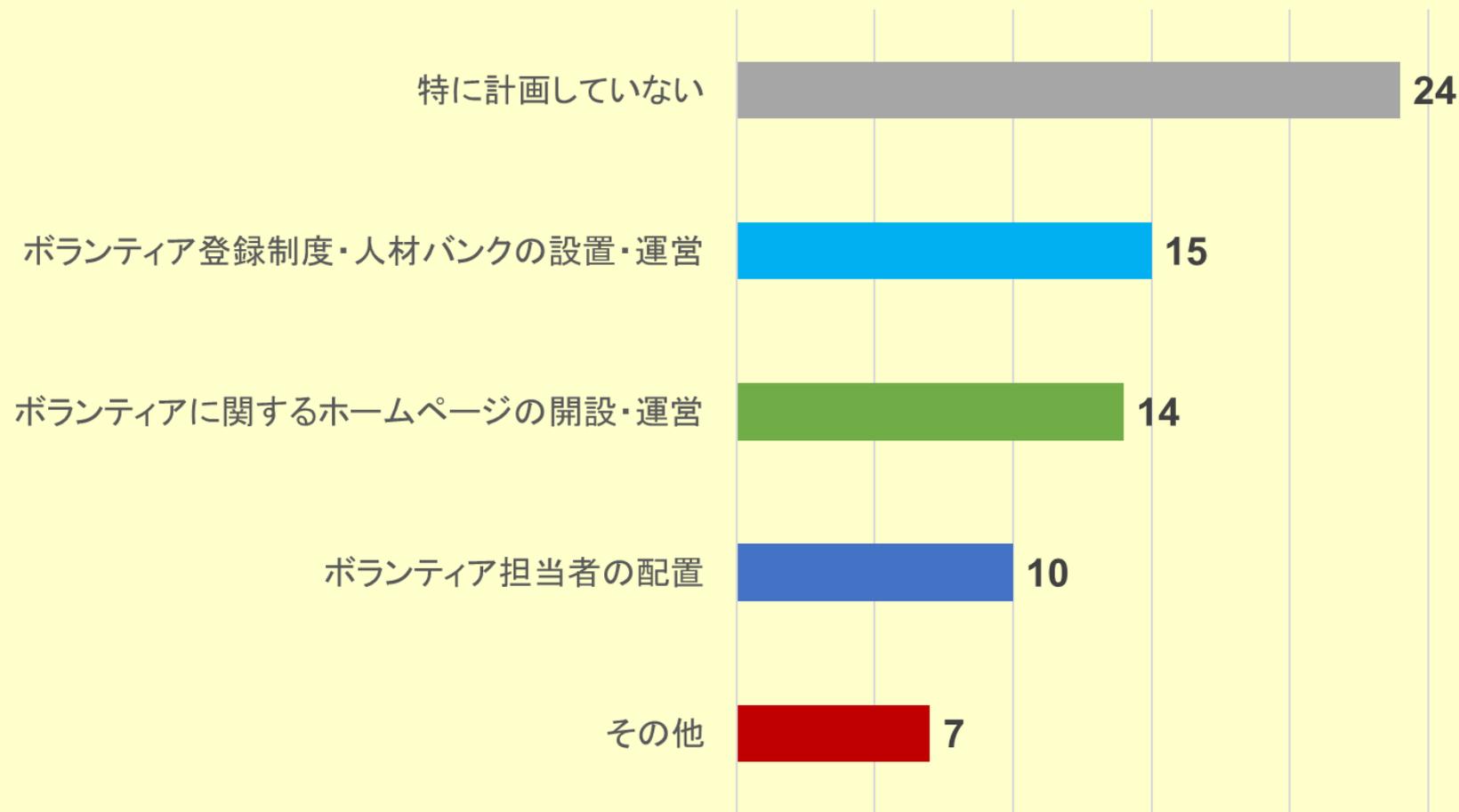
# アンケート結果詳細（団体）

18. 貴団体、またはご自身で「実施した / 実施している」スポーツボランティアを活用するための具体的な施策は、何ですか？（複数回答可）



# アンケート結果詳細（団体）

19. 貴団体、またはご自身で「計画している」スポーツボランティアを活用するための具体的な施策は、何ですか？（複数回答可）



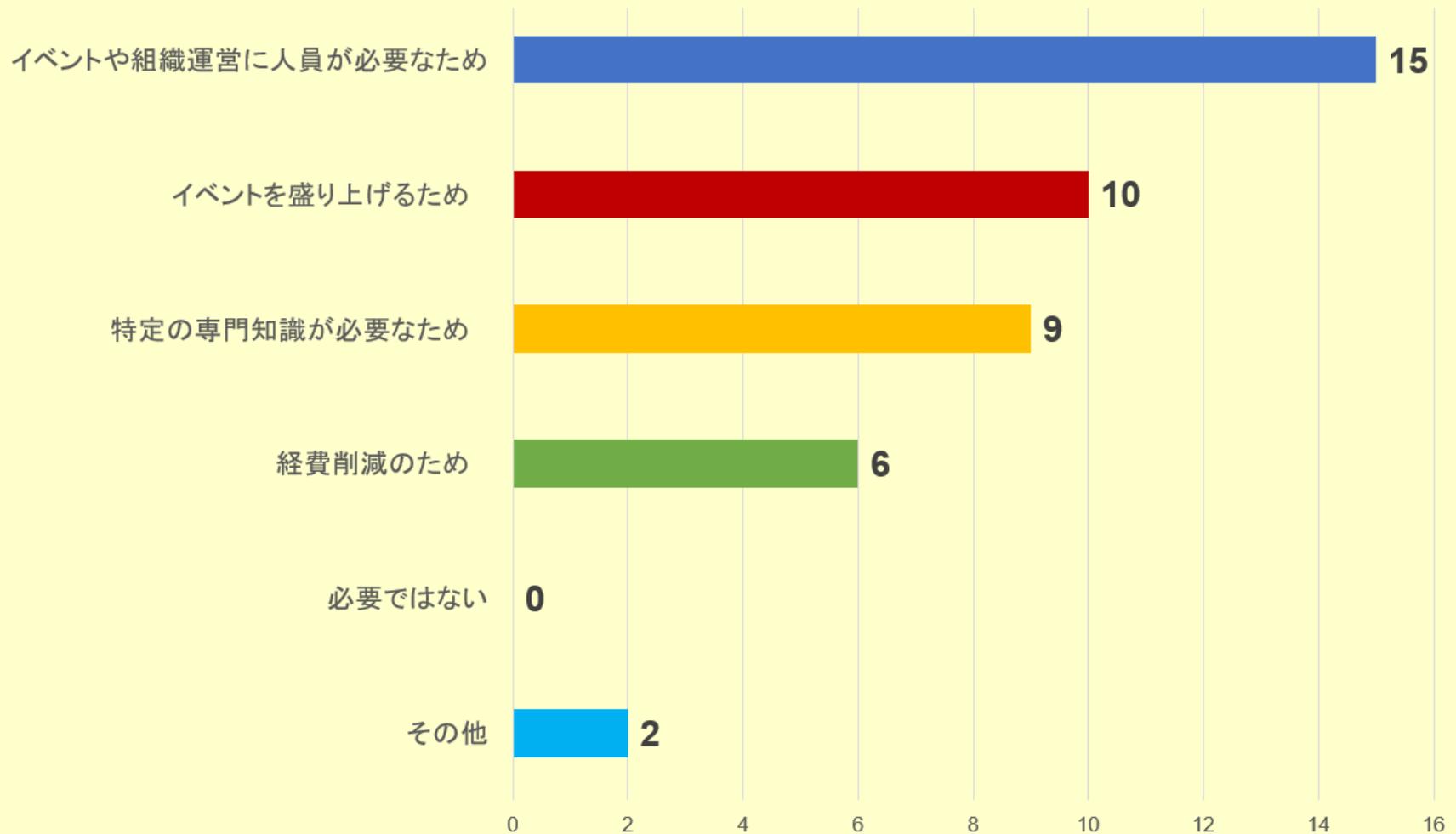
# アンケート結果詳細（団体）

## 20. ご意見があればご自由に入力してください（その他の団体）

1	スポボラ.net の仕組みやデータ等を引き続き、活用したい
2	スポーツボランティアから他のボランティアへ展開できる道筋も示して頂きたい
3	大学が育成したボランティアが活躍する場をマッチングさせ、教育機関として社会貢献したい
4	正会員団体さん同士の情報交換など、様々な部分で情報を頂き、大変助かっております 今後は、特殊分野の障がい者スポーツにおけるボランティアをどのように広げていけるか、一緒に考えていただきたい
5	スポーツボランティアが、動員という意識でなく、スポーツの楽しみ方の一つであるという事を、地方でも広がって欲しい
6	コロナが終息し、誰もがなんの気兼ねなく楽しんでイベントに参加し、大声を出して応援出来る日が来る事を願っています ただ、その日が来た時に、ボランティアに参加して下さる方が高齢者が多く、再開した時に参加してくれるか不安がある 前々から、高齢化が進んでいる事を危惧していて、若い層の開拓と考えているがうまくいかない。(市内・近隣学校に声掛け等)若い人を参加してもらえるように今後していきたいと考えている
7	知的障がい者への理解が進むような活動を継続していきたいが、リーダーを務める人材の確保育成が難しい
8	スポーツボランティア研修会(リーダー含む)の内容をDVDを中心としたものから、対面講義(ワークを取り入れるなど)内容に変更頂きたい 講師の方をお招きしても内容の多くがDVDの内容だと学生たちのモチベーション維持が難しい

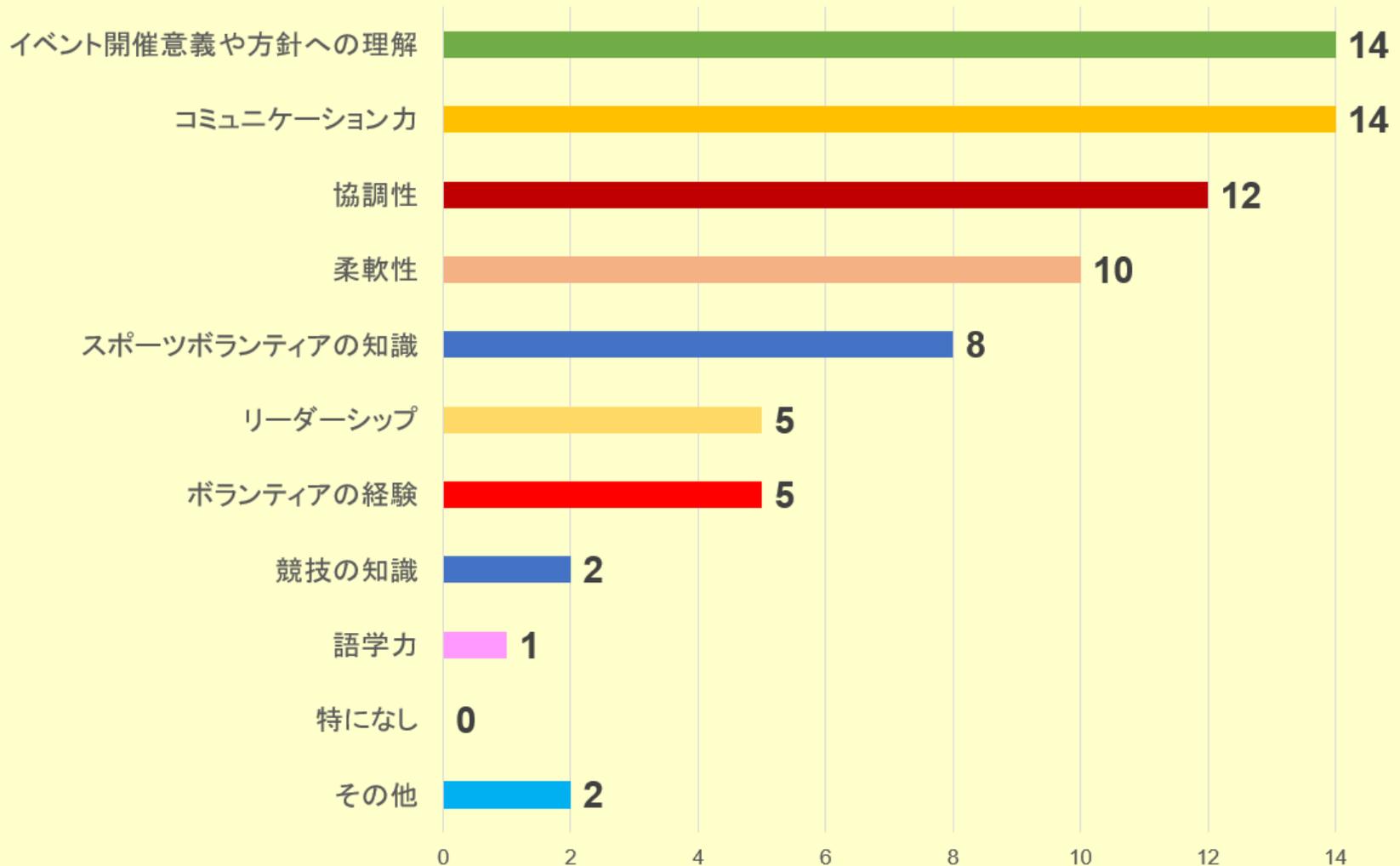
# アンケート結果詳細（個人）

## 2. 活動にボランティアを必要とする理由は何ですか？（複数回答可）



# アンケート結果詳細（個人）

## 3. スポーツボランティアに求めるものは何ですか？（複数回答可）



# アンケート結果詳細（個人）

## 4. ボランティア活動時の課題は何ですか？

1	運営側はボランティアをする場を提供し、ボランティアする側はその場を利用して楽しませてもらう。その対価として運営側は労働力を確保する。この持ちつもたれるのWIN-WINな <b>共存共栄を理解していないボランティアや運営側</b> 散見され、 <b>過大な要求をするボランティア</b> や <b>配慮に欠けた運営側</b> が存在して、ボランティア活動の継続性に大きく影響を与えていること
2	コロナ対策と非接触型コミュニケーションスキル、有償ボラと無償ボラの関係等
3	ボランティア活動は楽しまないと思います。その為に、その大会主催者が目指す目標、自分が活動する部署の活動内容熟知、等等ボランティア同志が同じ方向で活動をすることが大切、至っては大会成功につながる要素、結果 達成感、充実感を感じられ楽しく思える。最近そのあたりが曖昧になってきているボランティア増えている様に思います。「～～大会のボランティアに参加したんだ」それだけで優越感に浸っている？もう少し、 <b>活動を任せられたと言う自覚と責任感を持つ</b> と良いと思います
4	まだまだボランティア活動は積極的な人がやるもので、無償性が原則、裕福、余裕がある人がするもの捉えられている。社会からもそれを期待され、自分が楽しむ事は不謹慎的な捉え方が散見される。ボランティア活動の捉え方は”社会”という大きな捉え方です。誰かの為ではなく、今後は個人として捉える定義も必要では？個人としての楽しみ、喜びとしてのボランティア活動、自己成長としてほうが理解しやすい
5	リーダー不足
6	経験、考え方がさまざまな人で構成される場合、どうチームを一体化するか
7	常識と考えることも、世代や地域、学歴、職歴、生活環境(家族構成も含む)等、様々な要因で「常識」が異なることを認識した接し方、説明の仕方、活動の仕方を考え行動すること
8	大きな大会では、ボランティアの <b>不満や意見が汲み取りにくい</b> こと

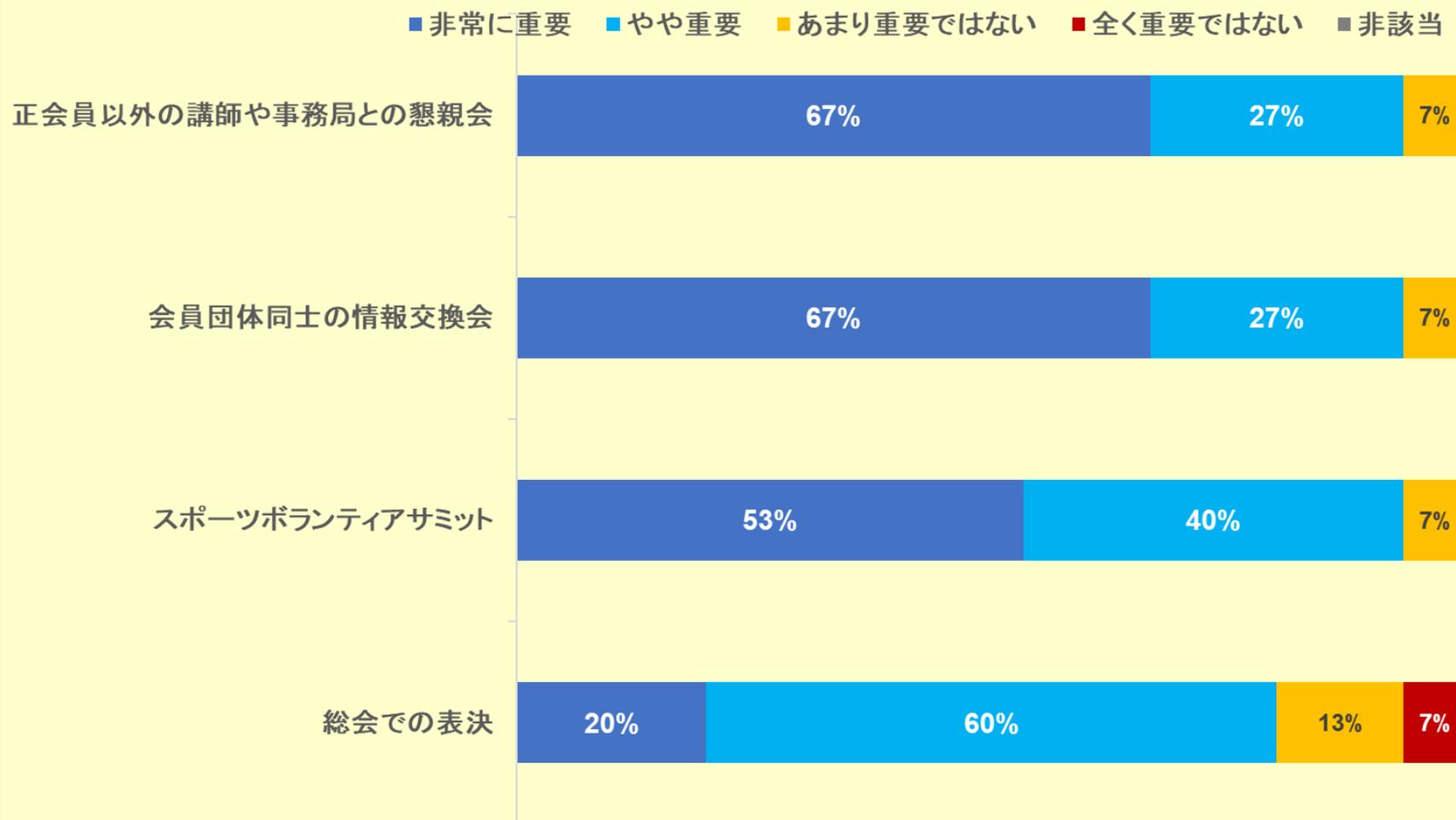
# アンケート結果詳細（個人）

## 5. ボランティアの価値は何だとお考えですか？

1	主体的、自主的、自発的に地域課題を解決 共感、共有、共創 マイプロジェクトの実践
2	楽しみのためのボランティア活動、誰かが活動に対して喜んでくれたり、感謝してくれた時に”ああ、やってよかった”と、心の底から喜びが込み上げてくる充実感であり、醍醐味である。ものの見方、考え方が広がった、人間性が豊かになったと自分自身の変化を評価できる。ここにボランティア活動の面白さ、楽しさ、活動後の充実感という主観的な価値観があると思います
3	運営側からは、運営組織の還流だと思っています さまざまな活動履歴のあるスポーツボランティアから、新しい運営、考え方を教えてくれる
4	自己の成長と、他人や他組織や社会の成長を両立できること
5	職業、学歴、地域を超えた「異業種交流」の場となる点で、ボランティアに参加しなければ接することは生涯ないような人と、同じ目的・目標（参加しているボランティアのイベント等）を持って同じ時間を過ごせる事。 また、自身の知識や能力等を提供しに行く場であることから、社会貢献や自身の存在価値を感じる事ができる貴重な場だと感じています
6	日常生活では得ることが出来ない経験ができること
7	社会の役に立ちつつ、自身の成長に繋がること

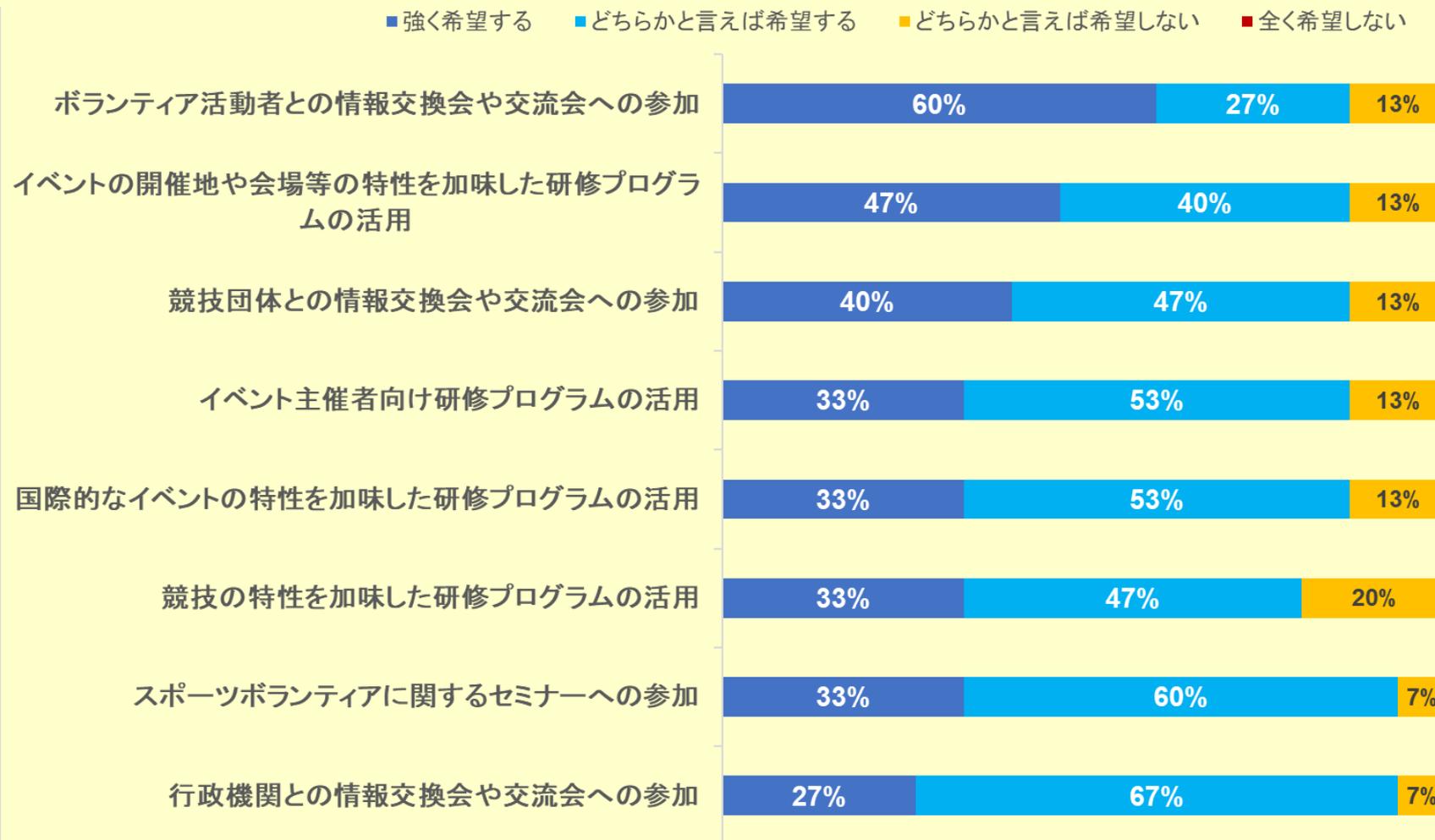
# アンケート結果詳細（個人）

## 6. 正会員へ提供している以下のサービスや機会に対する重要度は、どの様に感じますか？



# アンケート結果詳細（個人）

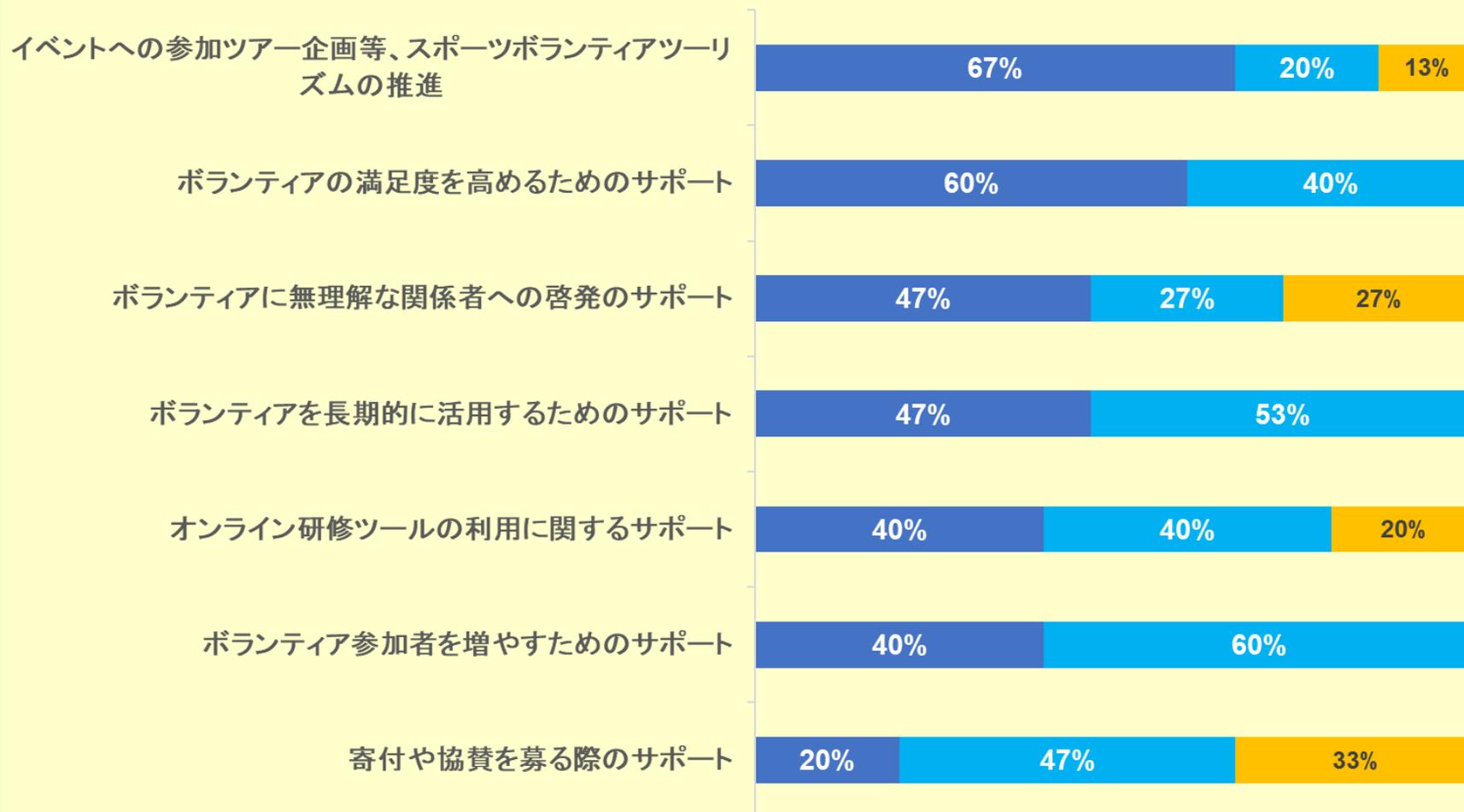
## 7. 今後、新たに提供してほしい機会は何ですか？



# アンケート結果詳細（個人）

## 8. 今後、新たに提供してほしいサービスは何ですか？

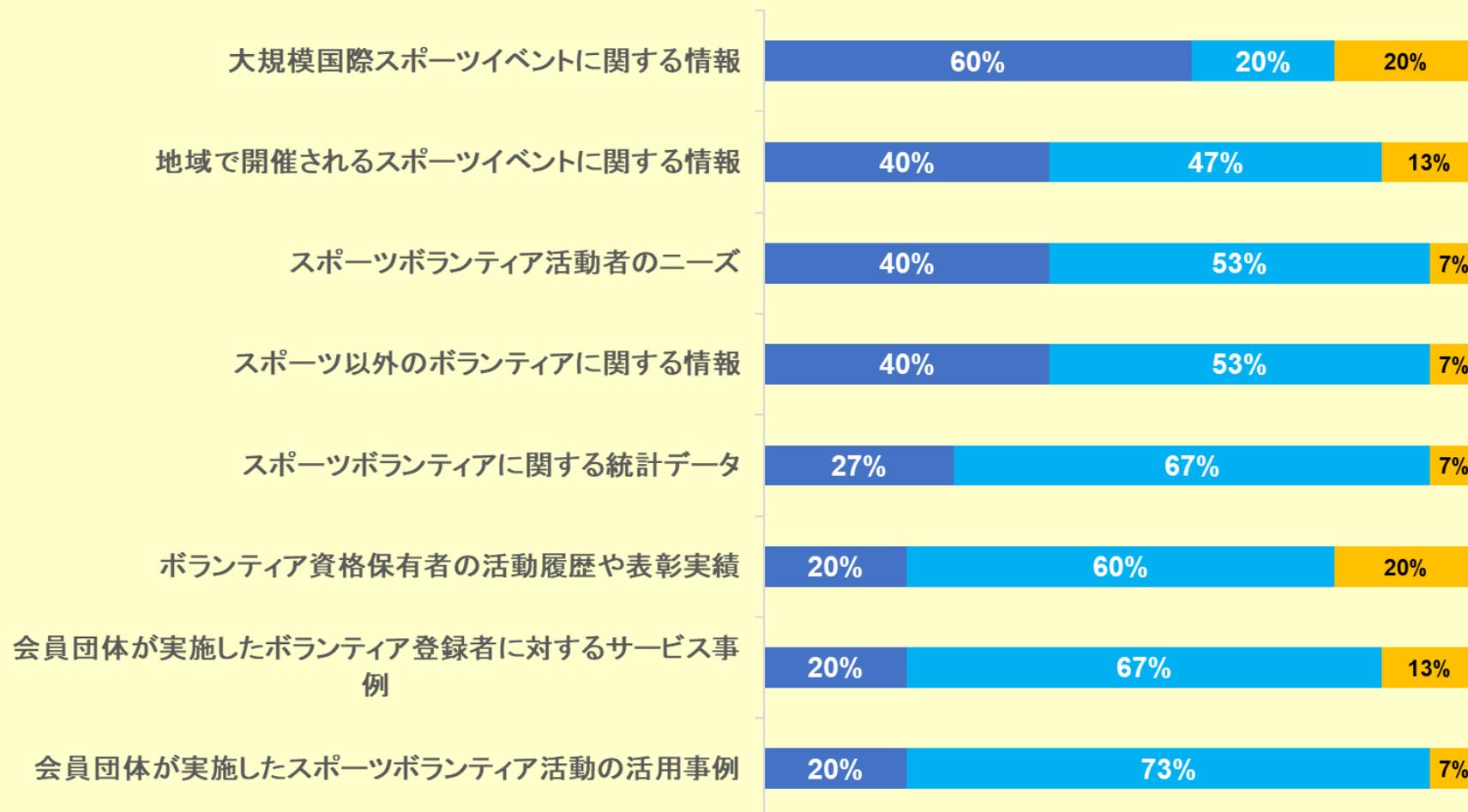
■ 強く希望する ■ どちらかと言えば希望する ■ どちらかと言えば希望しない ■ 全く希望しない



# アンケート結果詳細（個人）

## 9. 今後、新たに提供してほしい情報は何か？

■強く希望する ■どちらかと言えば希望する ■どちらかと言えば希望しない ■全く希望しない



# アンケート結果詳細（個人）

## 10. 今後、新たに提供してほしい権利やサービス等に関して、ご意見があれば、入力して下さい

1	<b>グループエントリー権</b> (各自のグループやコミュニティを持っている正会員が多いような気がします。そうしたコミュニティメンバーたちに活動機会を提供することができたら、WIN-WINになるのではないのでしょうか?)
2	スポーツツーリズム関連情報、スポーツボランティアに特化したおてつ旅、スポーツイベント関連マイプロジェクト スポーツボランティアの <b>可視化・価値化</b> 、狭い意味でのスポーツボランティアと広い意味でのスポーツボランティアの二極化について
3	<b>ボランティアマッチングのノウハウ</b> や、ボランティア参加の促進方法など

# アンケート結果詳細（個人）

## 11. ご意見があればご自由に入力してください

1	オンラインの時代なので、毎月決まった曜日で、団体間の交流会を開催してほしい
2	ボランティアを運用する側に、ボランティアを活用するための意義・価値・重要性・管理方法について意識を向上させる取り組み
3	JSVN以外でもスポボラ募集があるので、ここを見ると大概がわかるポータルサイトをもっと拡充してほしい
4	スポーツボランティアに限らず、ボランティアについての意義、必要性の醸成。特に地域に寝ずいたボランティア大切さの大切さの理解
5	スポーツボランティアに限らず、ボランティア活動の意義、必要醸成醸成
6	スポーツボランティアのPDCAサイクルの次にOODAサイクルの理論も必要だと考えています。コロナ禍でスポーツボランティアの価値観も変化しているので、社会の変化に対応できるスポーツボランティアを考えていきたいと思います。そして行動経済学分野のナッジ理論も面白い楽しいスポボラに必須と考えています。
7	ボランティアの現場に行くと同じ人とお会いします。それはそれで楽しいのですが、もっと新しい人たちを積極的に誘って参加しないといけないとも考えています
8	以前とは全く状況が変わってしまったこの数年。とはいえ、徐々にではありますがスポーツボランティアの活動の場も戻ってきつつあります。東京2020が終了した今、改めてスポーツボランティアに求められているものを認識し、新たな時代の活動のつなげていくための、資料や取り組み、アイデアなどをシェアできる機会がもっとあるとありがたいです
9	今後の体制やシステム変更に期待しています